

持下 一年 中央新聞 (一月三日) 国下 産刊

(42) ぬに大なる力と云ふべきである。

小林氏が新聞紙に依り又は海軍會に依り運動し、

ある以外に、友愛會系の労働團體を作つて奮闘して來

たものに、岩田氏を中心とする念地支部と煤田鐵工所

の職工を中心とする名古屋支部とがある。此の兩者が

困難的空氣の濃厚な中に在つて苦闘を重ねて來た事は

注目すべき事實である。

名古屋労働者協會は形式上友愛會名古屋支部の變化

したものである。

名古屋労働者協會 綱領及會則

一、吾等は世界の平和人類の福を増進し國家産業

の健全なる發達を期す

二、吾等は労働の神聖を信し労働状態の改善を期す

三、吾等は労働者の自覺と資本家の保羅とを促し真

の労働協約を爲す

一、吾等は愛によつて結合し、吾等は決心を固め

げねばならぬ

會則

一、本會は労働者で組織する

二、本會は本會の綱領を成し遂げる事が目的である

三、本會はその目的を成し遂げるために本部に左の

役員を置き必要なる各種事業を行ふ

會計委員會

執行委員會

産業委員會

法律委員會

宣傳委員會

調査委員會

出版委員會

外務委員會

行委員會に關する綱領は別に定むる。

内部の改革と勇戦する闘士とを待た同協會は夜に連に

其闘を間斷なく行ふたのである。茲に於て始めて此の

場方の凡ての困難及び資本家は因迫して其の労働運動

の奔出の一面を形造つたのである。昨夏神戸に奮起

した川崎及三菱の罷業當時の如き(神戸の同職の急

と發)と叫んで演説會を催し路上に奇南金を集め發

100

159